

テーマ

**『奈良を知る 地域を知る』—世界遺産と環境—
～クロスオーバー若草 点から線、線から面へ～**

目 標

- ・講演会やフィールドワークによる「奈良を知る 地域を知る」学習を進め、ホームページや校区交流ルームを整備し、広報活動を活性化させる。
- ・地域コーディネーター会議を充実させ、各校園の取組のアピールや見学会を推進し、つながりを更に深めていく。
- ・地域や保護者の方々に気軽に参加できる地域合同文化講演会では、「華厳～ひとりひとりが華であるという考え方～」「松永久秀と多聞城」「正倉院と若草中学校」と題して3年のサイクルを維持し、28年度以降も開催を継続していく。

今年度の取組紹介

・文化講演会

今年度は、北村雅昭氏に「松永久秀と多聞城」と題し、ご講演いただきました。わかりやすい説明で楽しい講演会になりました。



・コーディネーター会議

年間6回の「地域コーディネーター会議」を継続して開催し、和やかに話し合いを進めることができ、地域の方々のつながりが深まってきていることが実感できました。



・校区交流ルーム

「校区交流ルーム」の整備を進め、今後も校区の各運営委員会の取組の様子を紹介していきたいと考えています。

今年度のまとめ

「校区交流ルーム」の整備や、「地域コーディネーター会議」の継続ができました。和やかな話し合いや情報交換が進み、地域の方々のつながりが深まっています。

各校園の取組を線で結びつける意識付けをさらに進めていき、さらに有機的な人々のつながりをつくっていきたいと考えています。

来年度に向けて

- ・地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターのつながりをさらに深めていきます。
- ・若草中学校区各校園の取組内容の理解を深めながら連携を模索していきます。
- ・「校区交流ルーム」をさらに整備し、充実したものにしていきます。そのことにより各校園の取組を継承しつつ、取組の更なる連携を模索しながら、幼から小、小から中への滑らかな接続がなされ、協議会へと集約されていくことをめざします。

テーマ

学びをはぐくむ

目 標

- ・基礎、基本の繰り返しや基本的な学習習慣の確立を通して、生徒が生き生きと活躍する場を設定する。
- ・暗記的な知識を増やすことが目的でなく、現実の生活や自分の進路選択に大いに役立つ取組の充実を図る。
- ・教室の場で身につけた学びの力を学校行事や発表会、生徒会活動などで十分に発揮できる場を設定する。
- ・命、人権を大切にする日頃の取組の充実を図る。
- ・心和む学習環境を整備する。

今年度の取組紹介

○学習支援

- ・学習支援冊子「学びのはぐくみ」の作成・配布
- ・「中3学習会」ボランティア

3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域ボランティアや大学生に協力いただき学習会を行っています。



○地域と共に取り組む行事

- ・「ゲストティーチャー」から学ぶ

1年生で多文化理解、2年生で職場体験の事前学習会、障がい者理解講演会にゲストティーチャーをお迎えし、学びました。

○環境整備

- ・「図書室と校地環境の整備」

PTAや地域の方々がボランティアとして図書室の蔵書整備や飾り付け、校舎壁面のペンキ塗り、花の植え替えなど生徒の学習環境をより美しく整備いただきました。



○安全支援

- ・「部活動巡回ボランティア」

部活動の場に顧問が付けられない職員会議時など、保護者が巡回ボランティアとして見守っていただいています。

今年度のまとめ

保護者・地域の方々に生徒の姿を見ていただく機会を多くもつことができました。また、生徒たちはゲストティーチャーなど多方面でご活躍の方々から多くのことを学ぶことができました。

来年度に向けて

小中の系統的な学びや地域の方々との連携を見直し、生徒たちが地域で活躍できる場面をさらに増やしていきたいと考えています。

テーマ

つぎかのすてきに出会い・発見 そして発信

目標

地域の伝統文化や歴史的な事物に触れる活動を通して、自分たちの育った校区に誇りを持ち、その素晴らしさを校区内、校区外に発信し、より地域のきずなを深めあえるようにする。また、地域が次世代に文化をつなげていくことを自覚し、その教育力をもって、児童、地域を高める活動を促していく。

今年度の取組紹介

◎つぎかフェスタ(地域連携事業発表会)を通して

本校は、地域の「ひと」・「もの」・「こと」を、低学年は生活科、中学年・高学年はつぎかタイム(総合的な学習の時間)を中心に地域へ出向いたり地域の方から聞き取りをしたりして調べています。自分たちで知り得たことや地域の方に教えていただいたことから自分たちの考えや思いをつぎかフェスタで発信しています。2年生は昨年1年の時に地域の方に教えていただいた「昔あそび」を1年生に教えたことを1年生と一緒に発表しました。縦のつながりの大切さを知った取組でした。

3年生は「今までの学習したことの発表」、4年生は「食育」いつもおいしい食事や給食を作っている方への感謝の気持ちを伝えました。5年生は「ニッポンバラタナゴと春日山原始林」で命のつながり、そしてそれを守っている人々の思いを伝えました。6年生は、「平和」一人の命はたくさんの命とつながっていることを伝えました。

◎バラタナゴ保全活動事業

平成22年2月に奈良県産ニッポンバラタナゴ里親第1号に本校が認定され、それ以来、近畿大学農学部北川先生のチームに協力をいただき、絶滅の危険のある「命」の大切さを学ぶ学習を続けている事業です。



今年度のまとめ

世界遺産に囲まれた素晴らしい環境に恵まれ、それら歴史にまつわる様々な行事、習慣等地域が守り続けた事柄が大変多く、守り続ける人々の結びつきは大変強いです。このような環境の中で、学校が様々な「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出することで地域との結びつきを深め合えるよう取り組んできました。地域の方々よりアドバイスやアイデアを受けながら、つながりが深まったように思います。「ひととの出会い」を大切にこの活動を進めていきたいです。

来年度に向けて

地域の「ひと」「もの」「こと」の出会い、つながりを大切にし、自分たちが育った校区を誇れるような取組を進めていきたいです。

テーマ

佐保に生きる（地域と共に）

目標

- ・ 佐保のよさが分かり、佐保を愛する心情と態度を育てる。
- ・ 佐保の自然や文化遺産を学ぶ。

今年度の取組紹介

自然・環境学習～ビオトープ・バタフライガーデンを通して～

E S D（持続可能な開発のための教育）として本校が取り組んでいる「ビオトープ・バタフライガーデンを通しての自然環境学習」も6年目を迎え、地域にも根付いてきた活動となってきています。専門家や地域の方々の支援を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を自らの問題として捉え、一人一人が自分にできることを考え、実践していくこと学んでいます。



地域連携活動～マーチングバンドの演奏を通して～



本校の伝統ともなっているマーチングバンドの活動では、地域のイベントやオープンスクールの場で日頃の練習の成果を見てもらい、地域の活性化にも貢献しています。地域の方々の中には、自分が小学生の時に在籍しておられた方もいて、子ども達の頑張りを佐保の誇りに感じている様子が伺えます。伝統を守り受け継ぐ心が子ども達にも育ってきています。

今年度のまとめ

身近な場所にビオトープという自然環境・生態系の生息空間を作り上げていく活動の中で、子ども達は佐保の自然環境から日本、世界の自然環境にまで関心を広げ、それらをどのように守っていけばいいのかを考え、自分が実践していけることを体験を通して学ぶことができています。この活動を通して、これから大人になっていく子ども達が佐保から地球の自然環境のことを守り育てていく担い手になっていってくれることを期待しています。

マーチングバンドの活動は、地域の文化を受け継ぎ次世代に繋いでいく役割も果たしながら、地域の心を一つにしていく活動になってきています。子ども達のがんばる姿が地域の活性化につながり、地域をコミュニティとしてさらに誇りと自信、連携を強めてくれる一助となっています。

来年度に向けて

子どもたちの生き生きとした活動が、地域の活性化につながり、地域の活性化が子ども達の元気につながることを、この活動を通して実感できています。この活動を継続・深化させながら、地域の活性化の発信源として、学校の取組を来年度も続けていきたいと思えます。

テーマ

夢がひろがるつぎ北広場

—地域で子どもを育てる 子どもで地域がつながる—

目標

地域とのふれあい、人・もの・こと との豊かな体験活動を通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる

今年度の取組紹介

本校は年々児童数が減少して1学年1学級となり、学校が核となり地域ぐるみで活性化することが喫緊の課題です。そこで、保護者や地域の方々との連携を大切にしています。特に今年度は、教職員と地域の方々との交流の場を設定し、それぞれの取組について理解を深め、課題を共有し合うことができました。隣接する幼稚園も今年度より休園となりましたが、中学校区としての保・幼・小・中の連携による学習活動の活性化、相互の育ち合いを大切にしています。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。そのために、中・長期的な視点で、より多くの学校協力者やボランティアによる学校支援の輪を広げようと努めています。本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、これを核として世界遺産学習、環境教育、へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油を、お世話になった地域の方々やボランティアの方々とともに、5年生が東大寺と春日大社に灯明油として届けました。地域の方の計らいにより、例年以上に手厚い対応をしていただき、子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。



今年度のまとめ

今年度も、「菜の花プロジェクト」を始め、安全見守り活動、地域交流活動等、各活動を深化・発展させてきました。それぞれの活動は、学校および地域行事として保護者や地域の方々に広く認識されてきています。地域の方が毎日の様に来校されているということもあり、急な変更等にも対応していただき、安心・安全な教育活動を、また、郷土に根付く教育活動を、地域ぐるみで支援していただくことができました。さらに、読み聞かせや図書環境整備ボランティアの活動が定着してきたこともあり、本の貸し出し数も大変多くなり、本に親しんでいる児童が増えてきていると感じます。

来年度に向けて

来年度は、教職員・地域に加え保護者の方々にも参加を呼びかけて地域交流会を行うなど、さらに地域との連携を強化させていく必要があると考えています。また、ボランティアの皆さんが高齢化している現状もふまえ、さらなる活動の深化をめざすために、今までの積み重ねを大切にしながら、深化・発展していきたいと考えています。

テーマ

輝く笑顔、心豊かに育ち合う楽しい幼稚園

目標

地域・家庭との連携を大切にしながら、豊かな心と体を培う。

今年度の取組紹介

○ サッカー教室 【体力づくり事業】

地域のコーチの方にきていただいて年6回「サッカー教室」を行っています。ストレッチの体操やボールの扱い方・ルール等を教わり、体を動かす楽しさや最後まで頑張る力を養う活動となっています。

2月には、“ワールドカップさほ”を開催し、チームに分かれて試合をし、保護者の方の応援を受け、友達と力を合わせてボールを追いかけてゴールを目指して最後まであきらめずに頑張っています。



○ 楽しいお話の会 【絵本の会事業】

年間を通して絵本・素話・ブラックシアター・手遊び等様々な手法で地域の方にお話を聞かせていただいています。たちは、話を聞くことで想像力や感性が豊かになり、話を聞く態度も身につけてきました。また、親子絵本作りを行い、思ったことや感じたことを絵や話に表現し、親子で絵本を仕上げました。出来上がった手作り絵本は、園内作品展に展示し地域の方にも幼稚園の教育を知っていただくよい機会となりました。



○ さほっ子クラブ 【伝統文化ふれあい事業】

地域の方繰り返しも豊かな教育力で、茶道・華道・剣道・柔道に分かれてクラブ活動を行い、日本の伝統文化にふれ楽しんでいます。異年齢とのかかわりが深まり、礼儀作法・話を聞く態度や姿勢が育ちました。

今年度のまとめ

年間を通して実施している、さほっ子クラブ・サッカー教室・楽しいお話の会・子育て広場さほ等貴重な体験をし、子どもたちは、様々な人と触れ合うことで笑顔があふれ楽しく活動することができました。楽しいお話の会では、「長い話も集中して聞いている子どもたちを見て感動しました」と褒めていただき、子どもたちの成長の様子を感じていただくことができました。

来年度に向けて

次年度も継続し、地域の方々の教育力を活かして保育に取り入れながら、人とのかかわる楽しさや喜び・感謝の気持ちを感じ、豊かな心の育ちにつなげていきたいと思います。また、地域・家庭・園との連携を密にし、佐保幼稚園の特色を活かした園づくりに努めていきたいと考えています。